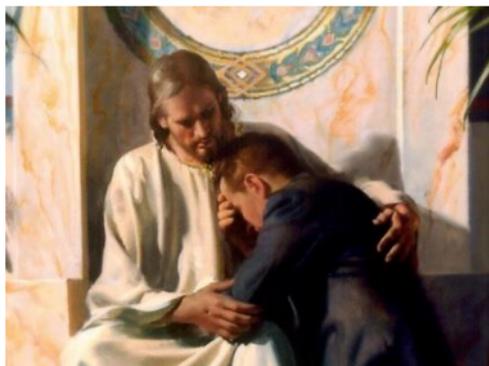


A man with a beard and short brown hair, wearing a black suit jacket over a white shirt, is sitting on a large, weathered log. He is smiling and looking towards the camera. The background consists of dense green foliage and trees. The entire image is framed by a red border with decorative corner elements.

# ニッケの苦と生

ニッケ・ブイッチ

NICK VUJICIC



天父のご臨在がキリストを取り囲んでいたのです、無限の愛なる神が世の祝福のためにお許しになること以外は、何ひとつキリストの身にふりかかってこなかった。これが、キリストの慰めの源であった。わたしたちにおいてもそうである。キリストのみたまに満たされた人は、キリストのうちに宿っている。彼をねらう打撃は、ご臨在をもって囲んでいてくださるキリストに当たる。彼に起こることはみな、キリストを経てくるものである。キリストが彼の守り手であるから、彼は自分で悪に手向かう必要がない。主のゆるしがなければ、何物も彼に触れることはできない。そして許されることはみな相共に働いて彼を愛する者たちの益となるのである。



私の名前はニック・ブイチチです。私は自分の証を通して世界中の多くの人々の心に触れることができ、神様に栄光を帰したいと思えます。私は手も足もなく生まれてきました。医者たちは、このような欠陥を持って生まれてきたことに対して何ら医学的説明を持ち合わせていません。想像がつくと思いますが、私は多くの挑戦、そして障害に直面しました。

「むしろ、キリストの苦しみにあずかれ  
ばあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キ  
リストの栄光が現れる際に、よろこびに  
あふれるためである。」ペテロの第一の手  
紙 4:13

## 苦痛や苦闘に遭遇するとき 喜ぶことができるだろうか？

私の両親はクリスチャンでした。父は教会  
の牧師でした。彼らは聖書の言葉はよく知っ  
ていました。私は、1982年の12月4日の朝、  
オーストラリアのメルボルンで誕生しました。  
私の両親の喜びは、二言 "Praise God!" 「主  
はほむべきかな」でした。しかし、なんと、彼  
らに最初に生まれてきたのは、手も足もない  
子でした！両親には何の警告もあたえられず、

このような私の誕生に何の備えもできていなかったのです。医者たちにとってもショックでした。彼らにも何の答もなかったのです。そんなことがどうして起こったのかいまだに医学的な理由は何もありません。わたしの弟、妹は他の赤ちゃんと何の変わりもなく生まれてきました。

全教会員が私の誕生を嘆きました。私の両親は途方に暮れてしまいました。皆は言いま



した：「もし神が 愛の神であるなら、どうしてこんな最悪なことが起こることを許されたのか。しかも、他の人でなく、献身したクリスチャンにこんな事が起こったのですか？」と。父は、私がそう長くは生きないと思っていた。しかし、検査の結果は、ただ、手足がないだけで他はいたって健康な赤ちゃんであることが証明されたのです。

私の両親は、私の人生がどのようになるだろうかと非常に心配してくれました。神様は、私の幼児時代から学校に行くようになるまで、その間、両親に知恵と力と勇気を与えてくださいました。オーストラリアの法律では、私のような肉体的なハンディキャップを持つ者には普通の学校に行くことを許しませんでした。しかし、神様は、私の母に法律と戦う力を与えました。それはまさに奇跡でした。このような

子供が普通の学校に行けるようになったのは、私が最初でした。私は学校に行くのが好きでした。他の子供たちのように生きようと思いましたが、しかし、最初のころは、誰にも受け入れてもらえませんでした。皆から異様な目でみられ、いじめられたりして大変な目に遭いました。学校生活に慣れるのが大変でした。しかし、両親に支えられ、このようなことをも克服する態度と価値観を発達させていきました。私は他人と異なっていることを知っていましたが、しかし、私の内なるものは他の子供たちと何も変わってはいません。幾たびも落ち込むことはありました。もう、学校に行く必要はないと。しかし、その都度両親に励まされ、そんな考えは無視しなさい、自分から誰かに語りかける、誰かに語りかけることによって友達を作りなさいといわれました。やがて生徒達も私が彼らと同じなんだとを感じるようにな

りました。神様は新しい友達を徐々に増やして祝福してくださいました。

ある時には、自分の姿に意気消沈してしまったり、いらだったりするときもあり、そのことを他人のせいにしたりすることもありました。しかし、日曜学校に行くことによって、そこで、神様が私たちを愛しておられること、私たちに深い関心を持っておられることを学びました。



私は子供ながら神の愛を理解していました。しかし、神様が愛なら、どうしてこのように私を造ったのか理解できませんでした。私が何か悪いことをしてしまったからでしょうか？全校生徒で、自分だけが異常なのだと思います。自分はみんなに迷惑をかけ、みんなの重荷になっているのではないかと思いました。自分が早くいなくなれば、皆のためになるのではないかと思いました。早く苦痛の人生を



終えるため、命を絶ちたい思いになりました。しかし、そういう思いにあるとき、いつも私をなぐさめ、力づけてくれる両親があり、家族があったことを感謝しています。

私は情緒不安定になることもよくありました。思い上がったり、また孤独を感じたりすることもありました。しかし、これらの経験をすることによって、神様は与えてくださった同じ人生の悩みにあっている人たちを助けることができるようにしてくださいました。そして祝福に変えてくださいました。

与えられた人生を生きるように鼓舞し、自分の希望や夢の達成にどんな障害が立ちほだかろうとひるまないようにと励ますことができます。これはこの上ない喜びです。

私が学んだ最初の人生のレッスンは、何事

でも当たり前と思わないことです。

「神は、神を愛する者たち、すなわち、  
ご計画に従って召された者たちと共に  
働いて、万事を益となるようにして下  
さることを、わたしたちは知っている。」  
ローマ人への手紙 8:28

この聖句は私の心に強く語りかけました。  
運だとか偶然ということで私の人生に「悪い  
こと」が起こるのではない。神様は何か目的が  
なければ私たちの人生に何も起こることをお  
許しにならないことを知ったとき、私の心は  
全く平安になりました。

私がキリストに全生涯を捧げたのは、ヨハ  
ネ 9 章を読んだ、15 歳の時でした。イエスは、  
ある盲人が生まれつき盲人として生まれてき  
たのは、親の罪のためでもなく、本人の罪のた

めでもない、「神のみ業が現れるためである」とおっしゃいました。私が全能者の偉大なる証となるために神様は私を癒してくださるだろうと心から信じました。後になって分かったことですが、昔、神のみ旨ならば、祈ると癒されました。もし、神のみ旨でなければ、事は起こりませんでした。そのような時には、更に良いことを神様は計画しておられることを知っています。今は、神様は私のあるがままで私を用いてくださっていることを知っています。他人には許されない方法で。

私は今、23歳です。そして商業と経理の修士号を取り終えました。私は話すことが好きです。機会が与えられるなら、どこにでも出かけて行って私の話と証をします。そして今日の10代の若者たちに関心のある話題について

話す能力を磨きました。私は、ある協同組合のスピーカーでもあります。

私は、青年たちに働きかけたい情熱を持っています。そのためには、神が行ってほしいところには導かれるままにどこへでも行きます。

私は私の人生において達成したいと思っている多くの夢、目標があります。神様の愛と希望のためには、最高の証人になりたいと思います。



クリスチャン、非クリスチャンを問わず、世界的な語る器になりたいと思っています。25歳までには不動産の投資をして、自分でドライブできる自動車を工夫して、経済的に独立したいと思っています。そして"Oprah Winfrey Show オプラウインフレーション"でインタビューされ、私の話を分かち与えたいと望んでいます。ベストセラーの本を書くのも私の夢の一つです。今年の終わりには書き終えたいと思っています。それは"No Arms,



No Legs, No Worries! 手も足も思い煩いもない"という本になるかと思えます。

もしあなたが、何かをしたいという志と情熱があるなら、そしてそれが神様のみ旨であるなら、ちょうど良い時にそれを達成するでしょう。人間である私たちは、理由なしに自分たちの限界をいつも作り上げてしまいます。何よりも悪いことは、すべてがおできになる神様に限界があるということです！ 私たちは神様を「箱」の中に閉じ込めてしまうのです。



神様の力について、畏れ多くも思うことは、もし私たちが神様のために何かをしたいと思うとき、自分の能力に焦点をあてるのではなく、私たちの有用性に集中するのです。

なぜなら、私たちを通してなされるのは神様で、神様なしで私たちは何もできないからです。私たちが神様のために自分自身を用いて頂くように捧げるなら、私たちは誰の能力に頼ることになりますか？ 神様の能力です！

神様の祝福がありますように。

May The Lord Bless you



「苦しみにあったことは、わたしに良い事です。これによってわたしはあなたのおきてを学ぶことができました。」詩篇 119:71

「我々が存在するようになったのは、神が我々を必要とされたからである。」エレン・G・ホワイト ST4-22,1903

「人間は、自分が定めた標準以上には、出ることができないことを記憶しなければならない。そこで、どんなに苦しく、克己と犠牲が要求される時にも、標準を高くし、進歩の階段をのぼらなければならない。なににも妨げられてはならない。どんな人であっても、運命の網に捕えられて、どうにも身動きができないほどに、固く縛られている人はない。難

局に当面した場合には、それに打ち勝つ決心がなければならぬ。1つの障害を打ち破ると、前に進むいっそうの能力と勇気がわいてくるものである。正しい方面に向かって断固として進む時、環境は、妨げとはならず、かえって、わたしたちの助けとなるのである。」 キリストの実物教訓 306

「私どもの贖いのために払われた価、私どものためにそのひとり子に死をさえおゆるしになった天の神の測り知れない犠牲を考えると、キリストによって私どもは非常に高潔な状態に到達することができるという観念をおこさずにはおられません。」 キリストへの道 10,11